

令和元年度（第63回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

道徳（豊かな心を育む道徳シンポジウム）分科会

人間としてのよりよい生き方を共に考え，語り合う生徒の育成  
～道徳科における思考の深化を図る対話の充実と指導の工夫～

令和2年2月14日  
雫石町教育委員会  
雫石町立雫石中学校  
釜ヶ澤 和 泉  
朴 澤 かおり

<b>I 研究の概要</b>	1
<b>1 研究主題</b>	1
<b>2 研究主題設定の理由</b>	1
(1) 現在の社会背景から	1
(2) 学習指導要領・解説から	1
(3) 「豊かな人間の育成」を目的とする「いわての授業づくり3つの視点」から	1
(4) 生徒の実態から	2
<b>3 研究の目標</b>	2
<b>4 研究の構想</b>	2
(1) 「人間としてのよりよい生き方を共に考え、語り合う生徒」とは	2
(2) 「思考の深化を図る対話の充実」とは	2
① 「思考の深化を図る対話の充実」	2
② 「生徒の思考の深化を図り、対話を充実させる」授業づくりとは	2
<b>5 研究の全体構想図</b>	3
<b>II 研究の実際</b>	4
<b>1 組織的な指導体制の工夫 ～ローテーション授業～</b>	4
(1) 「指導の工夫」とは	4
① 時間割上の道徳の配置の工夫	4
② ローテーション授業の実施	4
(2) 編成上の留意点	4
(3) 1学年のローテーション編成	4
(4) 2学年のローテーション編成	6
(5) 3学年のローテーション編成	7
<b>2 授業づくりの工夫</b>	8
(1) 1学年の実践例「アニーサリバン」	8
① 指導案	8
② 授業づくりにおいて工夫した点	10
③ 板書	10
④ 生徒の学習シートから	10
⑤ 成果と課題	10
(2) 2学年の実践例「秀さんの心」	11
① 指導案	11
② 授業づくりにおいて工夫した点	13
③ 板書	13
④ 生徒の学習シートから	13
⑤ 成果と課題	13
<b>3 生徒の成長を認め、励まし、意欲を高める評価のあり方の検討</b>	14
(1) 評価文作成の基本的な考え方	14
(2) 学習シートに基づいた評価文の作成	14
① 2学期前半までの学習シート（1学年の場合）	14
② 評価文作成の手順	15
③ 全校統一学習シートの様式と作成した評価文例	17
④ 学習シートの記述に基づいた評価文作成の長所と課題点	20
<b>4 実践結果の分析と考察</b>	21
(1) 教師アンケートの結果から	21
① ローテーション授業について	21
② 授業づくりの工夫について	22
③ 評価について	22
(2) 生徒アンケートの結果から	23
① ローテーション授業について	23
② 授業づくりの工夫について	24
<b>III 研究のまとめ</b>	25
<b>1 成果</b>	25
<b>2 課題</b>	25
<おわりに>	25
【引用文献】【参考文献】【参考 Web ページ】	25
<資料1> 研究の流れ	26
<資料2> 「価値の明確化」方式の授業 一 千葉県立轟町小学校 校長 尾高正浩 氏から学ぶ	28

# Ⅰ 研究の概要

## 1 研究主題

人間としてのよりよい生き方を共に考え、語り合う生徒の育成  
～道徳科における思考の深化を図る対話の充実と指導の工夫～

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 現在の社会背景から

学習指導要領解説には、その改訂の経緯として次のように述べられている。「科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題」であり、「対応していくためには、・・・高い倫理観を持ち、・・・時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識する」ことが重要である。

子どもたちにとっては、これから出会うであろう、答えのない問題に対して、様々な文化や価値観を背景とする人々と、相互に尊重しながら納得解を見出して生きることが課題である。また、現実の困難な問題に対処することのできる実効性のある力を育成していくことも強く求められるようになった。これらのことから、自分を見つめなおし、他者の考えを聴き、社会と向き合っていくとする子どもたちを育てたいと考える。

### (2) 学習指導要領・解説から

学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の目標は次のように述べられている。「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

広い視野から考えるためには、他者との対話を重視したいと考える。  
また学習指導要領解説、第4章第3節「協力的な指導などについての工夫」には次のように記されている。「道徳科は、主として生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めるものであるが、学校の道徳教育の目標の達成に向けて、学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならない。そのために、指導に際して全教師が協力しあう指導体制を充実することが大切になる。」

本校研究主題「よりよい生き方を共に考え、語り合う生徒の育成」を実現するためには、個々の学級担任にのみ任せるとはならず、全教師が協力しあう指導体制が不可欠である。

指導体制の充実によって、次のような利点や効果を生み出すことも示されている。

- ① 学校としての指導方針が具体化され、指導の特色が明確になる。
  - ② 担当する全教師が生徒の実態や授業の進め方に問題意識を持ち、指導方法等の学び合いがうながされる。
  - ③ すべての教職員が各学級、生徒に関心を持ち、学校全体で生徒の道徳性を養う意識を持つようになる。
  - ④ 道徳科推進に関わる教材、保護者、地域等の人材情報が組織的に集約され、活用して、ねらいに即した効果的な授業が一層計画的に実施されることにつながる。
- (学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 p.87)

多くの教師が協力しあうことで、授業の質の高まりと、一人一人の教師の個性や得意分野を生かした指導が可能になることも期待されている。

### (3) 「豊かな人間の育成」を目的とする「いわての授業づくり3つの視点」から

岩手県教育委員会は、「豊かな人間の育成」を目的として、平成27年に「いわての授業づくり3つの視点」を作成している。教科、領域等の特質に違いがあっても、授業の構成はほぼ共通している。道徳科においては、道徳的価値に向き合い、他者と協働しながらよりよい生き方を考えていく生徒の姿を「豊かな人間」と考える。道徳科の授業づくりの視点として取り入れたい。

- 「道徳科授業づくり」の視点 (「いわての授業づくり3つの視点」に基づく)
- 視点1「学習の見通し」・・・生徒が授業のテーマを自分のこととしてとらえる。
  - 視点2「学習活動」・・・自分の考えをもち、ペアやグループ・全体での学習に臨み、自分の考えを発表したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりしている。
  - 視点3「ふり返り」・・・考えが深まったこと、新たに気づいたことを、自分の言葉で説明し、これからの生き方について考えている。聴き合うことから得られる良さを実感している。

#### (4) 生徒の実態から

本校の生徒は、明るく、大きな声であいさつができる。始業2分前の着席を守り、時間いっぱい清掃に取り組み、公共のものを大切に扱っている。生徒会活動、委員会活動を通して、積極的に皆のために活動している。部活動に熱心に取り組み、体力の向上に努めている。

一方、相手の立場で考えて話をしたり、行動することが課題である。また、感謝の気持ちを表したり、自分で考えて行動することは苦手である。他者と望ましい関係を築きながら、よりよい生き方を考えていく態度を育てていきたい。

### 3 研究の目標

- (1) 組織的な指導体制の工夫を図る。
- (2) 授業づくりの工夫を図る。
- (3) 生徒を認め、励まし、意欲を高める評価のあり方を検討する。

### 4 研究の構想

#### (1) 「人間としてのよりよい生き方を共に考え、語り合う生徒」とは

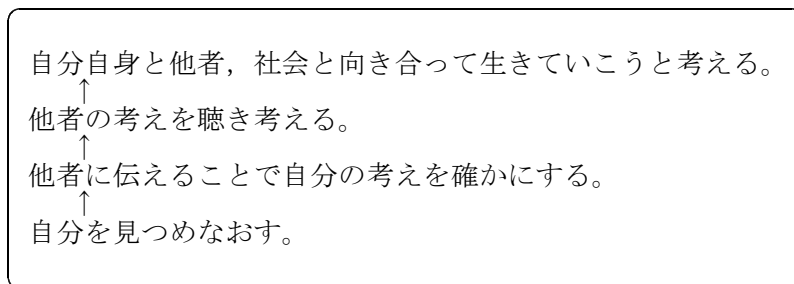
問題について自分を見つめなおし、よりよい解決をめざして、他者と共に考えながら自分、他者、社会と向き合って生きていこうとする生徒ととらえる。

#### (2) 「思考の深化を図る対話の充実」とは

##### ① 「思考の深化を図る対話の充実」

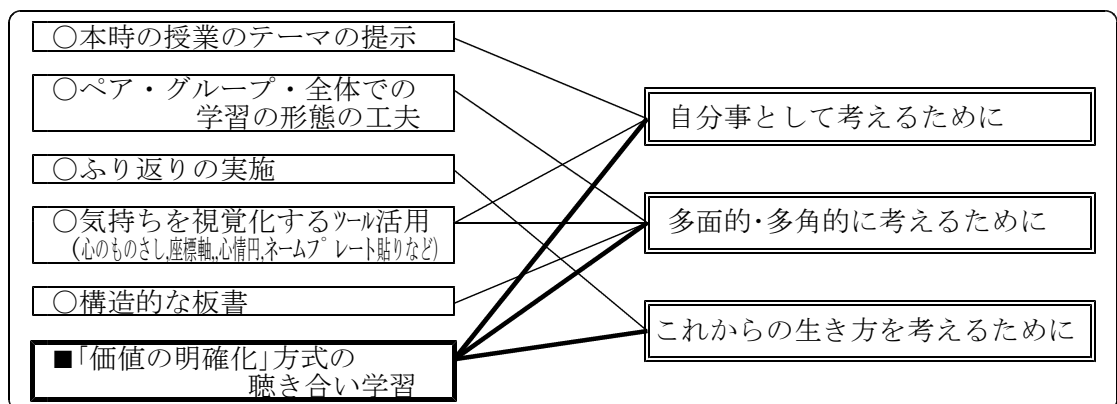
対話の出発点は、問題について自分のこと（自分事）としてとらえた時である。生徒にとっての自分事こそ、明確に他者に伝えることができる。他者の考えを聴き、他者と自分をくくって、その違いから新たな問題意識が生まれる。この問題意識が、道徳的価値について個々の考えの深まりや広がりやうながすことにつながる。「対話」が充実することで、物事を一つの面だけをとらえるのではなく、多面的・多角的に考えることができる。このようにして、価値についての理解を深めることと、人間理解や他者・社会への理解を深め、人間としてのよりよい生き方について考えを深めていくことができると考える。

#### 思考の深化を図る対話が充実したときの生徒の姿

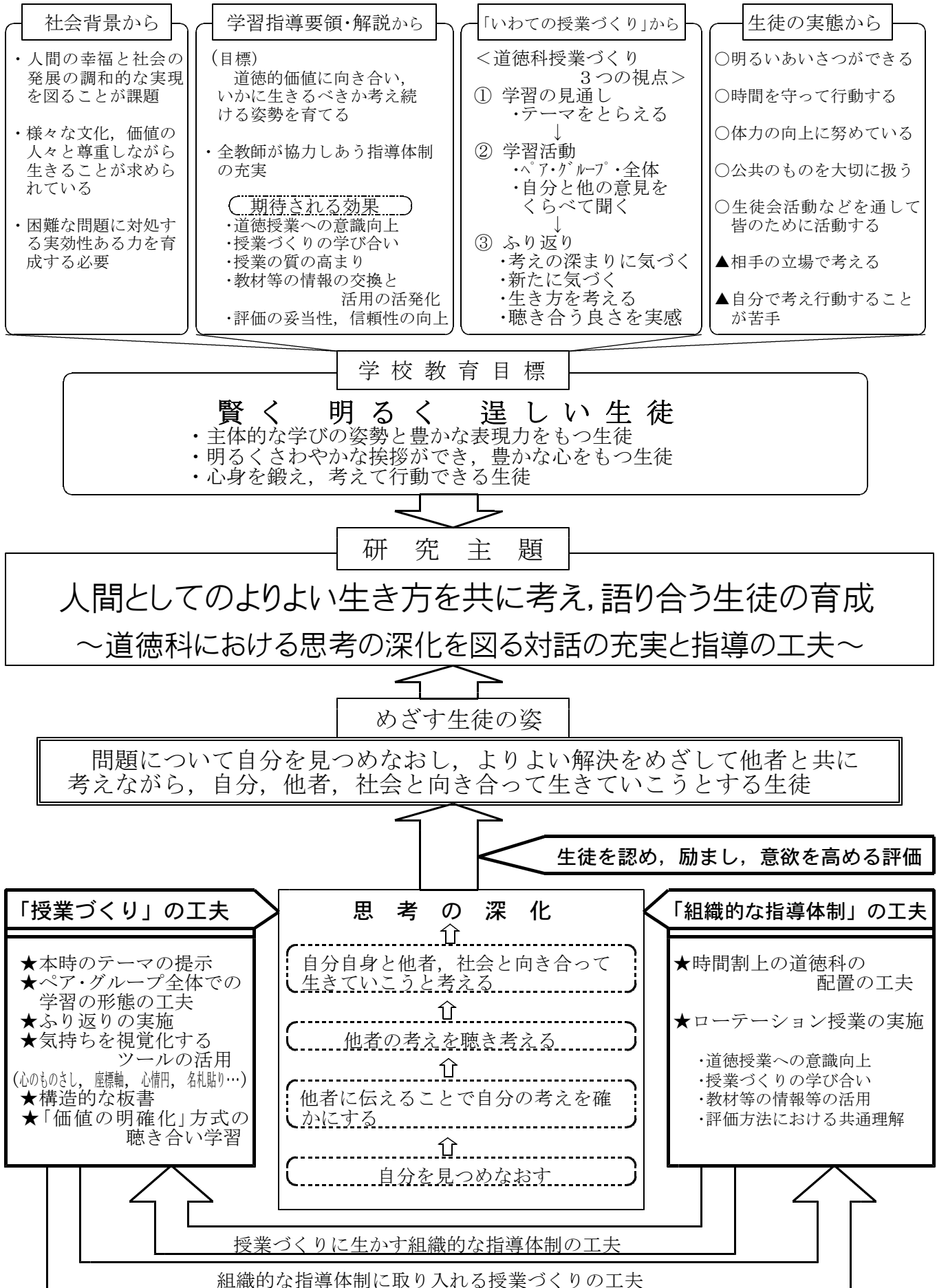


##### ② 「生徒の思考の深化を図り、対話を充実させる」授業づくりとは

本校では、3観点「自分事として考える」「多面的・多角的に考える」「これからの生き方を考える」において、以下の5つの方法(○印)を取り入れた。「価値の明確化」方式による聴き合い学習については、10月から授業づくりに取り入れた。



## 5 研究の全体構想図



## II 研究の実際

### 1 組織的な指導体制の工夫 ～ローテーション授業～

#### (1) 「指導の工夫」とは

##### ① 時間割上の道徳の配置の工夫

本校では「指導の工夫」を「組織的な指導体制の工夫」とした。  
これまでの道徳の時間は、特定の曜日の全校同一の固定時間に位置づけられていたが、柔軟に配置することにした。1学年は金曜日の1校時目、2学年は水曜日の1校時目という配置をとる場合もある。

##### ② ローテーション授業の実施

学年に所属する教師全員が1教材を担当し、4週間で4学級を一巡する「ローテーション授業」方式とした。ローテーション授業における期待される効果を以下に示す。

#### ローテーション授業における期待される効果

- 教師が道徳授業に関わろうとする意識が高まる。
- 担当する全教師の間で指導方法等の学び合いが期待される。
- 改善を重ねた授業を経験することによって、生徒の対話が充実し、考えが深まる。
- 教材等の情報の交換と活用が活発になる。
- 評価方法について共通理解が図られ、評価の妥当性、信頼性が向上する。

#### (2) 編成上の留意点

1学期、ローテーションを編成するにあたり、以下の点を全校で統一した。それ以外は各学年が運用しやすい編成にまかせた。

- 水曜日の1校時を道徳とすること。
- 教材の内容が、生命や家族に関わる内容項目である場合、生徒の生育歴や家庭環境を理解している担任教師が授業をおこなうこと。(以後、担任が行うことが望ましいと判断される教材を「担任教材」と呼ぶことにする。)
- 今年度の授業は、教科書の配列順に進めていくこと。
- 教師のローテーションによるクラスの進度の違いは、2ヶ月以内にとどめるよう編成すること。
- 学年のローテーションの編成に課題がある場合は、すみやかに改善を図ること。

#### (3) 1学年のローテーション編成

1学年の教師は、担任4名、副担任3名の計7名である。8つを「担任教材」とした。授業は5月第4週から始めた。教材①は「自分で決めるって?」【自主自立】。教材①は担任が授業を行った。以後、月1回は担任が「担任教材」の授業を行う計画にした。

ローテーション1巡目は4教材2、4、5、6番を3名の副担任と担任1名で担当した。教師は4つの教材から1教材を選んだ。

- 《 有効な点 》
- 授業の実施時期と年間指導計画とのずれは、おおむね1か月以内の範囲である。
  - 教師が教材を選ぶ際、自分の得意分野や経験に関わる教材の選択肢がある。1つの教材で4回の授業が可能となり、準備と改善の期間がある。
  - 担任の視点からクラスの生徒を把握できるように、「担任教材」を月1回位置づけたこと。
  - 担任は、自分のクラスで他の教師が行う授業を参観し、生徒の様子を把握することができる。
- 《 課題 》
- △ 「担任教材」は1度だけの授業となり、改善をして次の授業に臨むことはできない。
  - △ 担任が「担任教材」のみに取り組むことを優先した結果、副担任よりも授業に関わる機会が少なくなった。
- 《改善したこと》
- ◎ 月1回の「担任教材」については、学年内の道徳担当教師が、授業の1週間前から教材について内容項目や授業の進め方についての案を示したり、紙板書を作成したりした。
  - ◎ 担任がローテーションに加わる回数をふやし、授業づくりを学ぶ機会に恵まれるようにするため、2学期は7名の教師全員を順番にローテーションに組み込む形で進めた。

### 1学年 道徳ローテーション計画

		1組	2組	3組	4組
5月	1~3週	/			
	4週	① 1組担	① 2組担	① 3組担	① 4組担
	5週	2 副担A	4 副担B	5 副担C	6 3組担

6月	1週	4 副担B	2 副担A	6 3組担	5 副担C
	2週	5 副担C	6 3組担	2 副担A	4 副担B
	3週	③ 1組担	③ 2組担	③ 3組担	③ 4組担
	4~5週	/			

7月	1週	6 3組担	5 副担C	4 副担B	2 副担A
	2週	7 副担A	8 副担B	9 2組担	11 副担C
	3週	⑩ 1組担	⑩ 2組担	⑩ 3組担	⑩ 4組担
	4~5週	/			

		1組	2組	3組	4組
8月	1~3週	/			
	4週	8 副担B	7 副担A	11 副担C	9 2組担
	5週	9 2組担	11 副担C	7 副担A	8 副担B

9月	1週	⑮ 1組担	⑮ 2組担	⑮ 3組担	⑮ 4組担
	2週	7 副担A	8 副担B	9 2組担	11 副担C

\* 数字は教材の番号

\* ○印の番号は「担任教材」

1  
巡  
目

2  
巡  
目

(4) 2 学年のローテーション編成

2 学年の教師は、担任 4 名、副担任 2 名の計 6 名で編成した。担任教材は担任が授業を行った。2 学年の教師は、初任者をはじめとする若手教師と経験豊富な中堅教師で構成されている。このことから、若手と中堅がペアを組み、1 つの教材について解釈し、進め方などを相談して授業を行うようにした。ペアを組んだ教師は、同時時間帯に異なるクラスで授業を行い、翌週は、他の 2 クラスで 2 人のそれぞれの教師が授業を行う方法をとった。

《 有効な点 》 ○ 授業の時期は、ほぼ年間指導計画通りに実施され、ずれがほとんど生じない。  
○ 教師どうしが相談や情報交換をしながら、授業づくりができる。

《 課題 》 △ ペアを組んだ教師どうしが教材について検討する時間を確保することが困難。  
△ 1 回目の授業後に改善を図り、2 回目の授業に臨むことになるが、2 回目の授業で授業の質的向上を図ることができたという達成感は得がたい。  
△ 担任は、「担任教材」と他の教材が短い周期で廻ってくるため、教材準備の期間が短い。  
△ 教師が自分の得意分野や経験に関わる教材を選ぶことができない。  
△ 同じ時間帯に授業を行う 2 人のペア教師は、互いの授業を参観することができない。

《改善したこと》◎ 2 人のペアの教師の授業を時間帯をずらして行い、互いの授業から学ぶ機会をもつことができるようにした。

2 学年 道徳ローテーション計画 (その 1)				
	1 組	2 組	3 組	4 組
5月 3週	<b>担任</b> 三百六十五×四回分の「ありがとう」 【家族愛 家庭生活の充実】			
5月 4週	<b>担任</b> テニス部の危機 【よりよい学校生活, 集団生活の充実】			
5月 5週	<b>4組担任(中)</b> 夢中になるのは悪いこと? 【節度, 節制】	<b>1組担任(若)</b> 友達をライバル 【友情, 信頼】	<b>2組担任(若)</b> 友達をライバル 【友情, 信頼】	<b>3組担任(中)</b> 夢中になるのは悪いこと? 【節度, 節制】
6月 1週	<b>副担任A(中)</b> 雪に耐えて梅花麗し —黒田博樹 【希望と勇気, 克己と強い意志】	<b>副担任B(若)</b> 雪に耐えて梅花麗し —黒田博樹 【希望と勇気, 克己と強い意志】	<b>4組担任(中)</b> 夢中になるのは悪いこと? 【節度, 節制】	<b>1組担任(若)</b> 夢中になるのは悪いこと? 【節度, 節制】
6月 2週	<b>2組担任(若)</b> 友達をライバル 【友情, 信頼】	<b>3組担任(中)</b> 友達をライバル 【友情, 信頼】	<b>副担任A(中)</b> 雪に耐えて梅花麗し —黒田博樹 【希望と勇気, 克己と強い意志】	<b>副担任B(若)</b> 雪に耐えて梅花麗し —黒田博樹 【希望と勇気, 克己と強い意志】

< 今回の教材とチーム > (その 1)		
教材	チーム	
	若手	中堅
夢中になるのは悪いこと? 【節度, 節制】	<b>1組担任</b>	<b>4組担任</b>
友達をライバル 【友情, 信頼】	<b>2組担任</b>	<b>3組担任</b>
雪に耐えて梅花麗し —黒田博樹 【希望と勇気, 克己と強い意志】	<b>副担任B</b>	<b>副担任A</b>

2 学年 道徳ローテーション計画 (その 3)				
	1 組	2 組	3 組	4 組
9月 1週	<b>4組担任(中)</b> つながる命 【生命の尊さ】	<b>3組担任(中)</b> 段ボールバットへの思い 【勤労】	<b>副担任A(中)</b> スカイツリーにかけた夢 【真理の探究, 創造】	<b>副担任B(若)</b> つながる命 【生命の尊さ】
9月 2週	<b>1組担任(若)</b> 段ボールバットへの思い 【勤労】	<b>2組担任(若)</b> スカイツリーにかけた夢 【真理の探究, 創造】	<b>4組担任(中)</b> つながる命 【生命の尊さ】	<b>3組担任(中)</b> 段ボールバットへの思い 【勤労】
9月 3週	<b>副担任A(中)</b> スカイツリーにかけた夢 【真理の探究, 創造】	<b>副担任B(若)</b> つながる命 【生命の尊さ】	<b>1組担任(若)</b> 段ボールバットへの思い 【勤労】	<b>2組担任(若)</b> スカイツリーにかけた夢 【真理の探究, 創造】
9月 4週	<b>副担任B(若)</b> 夢を求めてパラリンピック 【生命の尊さ】	<b>1組担任(若)</b> 秀さんの心 【礼儀】	<b>2組担任(若)</b> ちがいの意味を見直す 【社会参画, 公共の精神】	<b>4組担任(中)</b> 夢を求めてパラリンピック 【生命の尊さ】
10月 1週	<b>3組担任(中)</b> 秀さんの心 【礼儀】	<b>副担任A(中)</b> ちがいの意味を見直す 【社会参画, 公共の精神】	<b>副担任B(中)</b> 夢を求めてパラリンピック 【生命の尊さ】	<b>1組担任(若)</b> 秀さんの心 【礼儀】
10月 2週	<b>2組担任(若)</b> ちがいの意味を見直す 【社会参画, 公共の精神】	<b>4組担任(中)</b> 夢を求めてパラリンピック 【生命の尊さ】	<b>3組担任(中)</b> 秀さんの心 【礼儀】	<b>副担任A(中)</b> ちがいの意味を見直す 【社会参画, 公共の精神】

< 今回の教材とチーム > (その 3)		
教材	チーム	
	若手	中堅
つながる命 【生命の尊さ】	<b>副担任B</b>	<b>4組担任</b>
段ボールバットへの思い 【勤労】	<b>1組担任</b>	<b>3組担任</b>
スカイツリーにかけた夢 【真理の探究, 創造】	<b>2組担任</b>	<b>副担任A</b>
↓ この時はペアを変えずに √ 次の教材に取り組んだ。		
教材	若手	中堅
夢を求めてパラリンピック 【生命の尊さ】	<b>副担任B</b>	<b>4組担任</b>
秀さんの心 【礼儀】	<b>1組担任</b>	<b>3組担任</b>
ちがいの意味を見直す 【社会参画, 公共の精神】	<b>2組担任</b>	<b>副担任A</b>



(5) 3 学年のローテーション編成

3 学年の教師は、担任 4 名、副担任 2 名の計 6 名でローテーションを編成した。「担任教材」と他の教材を区別することなく選んで授業をおこなうことにした。

- 《 有効な点 》
- 授業の時期は、ほぼ年間指導計画通りに実施され、ずれがほとんど生じない。
  - 得意分野や教師自身の経験に関わるに教材を選ぶ選択肢が多い。
  - 一定期間不在となる教師がいたが、授業時期を考慮して教材を選ぶことができる。

- 《 課題 》
- △ 教師が「担任教材」と他の教材を区別せずに教材を選ぶことで、生徒の心気面への十分な配慮ができないことが危惧される。
  - △ 進路指導主事の進路事務量が 2 学期以降多くなり、道徳授業が負担と感じられるようになる。

- 《改善したこと》
- ◎ 6 名の教師がどの教材についても生徒の実態に配慮し、授業を行った。
  - ◎ 生命についての教材のうち 1 つは、担任が授業を行った。
  - ◎ 2 学期以降、進路指導主事の進路事務の大きさを考慮し、授業者から除くこととした。  
10 月中旬から担任 4 名、副担任（学年主任）1 名の計 5 名でローテーションを編成して授業に取り組んだ。

3 学年 道徳ローテーション計画

		1 組	2 組	3 組	4 組
5 月	1~3 週	/			
	4 週	6 副担任 A	1 2 組担任	3 3 組担任	4 4 組担任
	5 週	1 2 組担任	6 副担任 A	2 1 組担任	5 副担任 B

		1 組	2 組	3 組	4 組
8 月	1~3 週	/			
	4 週	9 1 組担任	11 副担任 B	7 4 組担任	10 副担任 A
	5 週	7 4 組担任	12 3 組担任	10 副担任 A	8 2 組担任

6 月	1~2 週	4 4 組担任	2 1 組担任	6 副担任 A	5 副担任 B
	3 週	5 副担任 B	4 4 組担任	1 2 組担任	6 副担任 A
	4 週	10 副担任 A	3 3 組担任	4 4 組担任	1 2 組担任
	5 週	3 3 組担任	10 副担任 A	5 副担任 B	2 1 組担任

9 月	1 週	14 副担任 B	13 2 組担任	15 1 組担任	7 4 組担任
	2 週	18 3 組担任	16 4 組担任	13 2 組担任	17 副担任 A
	4 週	15 1 組担任	18 3 組担任	17 副担任 A	13 2 組担任
	5 週	16 4 組担任	17 副担任 A	14 副担任 B	15 1 組担任

7 月	1 週	2 1 組担任	11 副担任 B	3 3 組担任	7 4 組担任
	2 週	12 3 組担任	8 2 組担任	9 1 組担任	11 副担任 B
	3 週	11 副担任 B	12 3 組担任	8 2 組担任	9 1 組担任
	4 週	8 2 組担任	9 1 組担任	11 副担任 B	12 3 組担任

10 月	1 週	13 2 組担任	15 1 組担任	18 3 組担任	14 副担任 B
	2 週	17 副担任 A	14 副担任 B	16 4 組担任	18 3 組担任
	3 週	/			
	4 週	21 1 組担任	25 2 組担任	26 3 組担任	19 副担任 A
	5 週	16 4 組担任	26 3 組担任	21 1 組担任	25 2 組担任

\* 道徳の曜日は固定ではなく、担当者が全員そろっている日とする。  
\* 副担任 B（進路指導主事）は、10 月中旬からローテーションから除く。

## 2 授業づくりの工夫

### (1) 1学年の実践例「アニー・サリバン」

#### ① 指導案

## 第1学年 道徳科学習指導案

日時 令和元年 7月16日(火) 5校時  
対象 雫石中学校1年1組  
(男子17名 女子15名 計32名)  
場所 1年1組教室  
授業者 釜ヶ澤 和泉(1学年 副担任)

### 1 教材名 「ヘレンと共に -アニー・サリバン」 (光村図書 「きみがいちばんひかるとき」)

A 主として自分自身に関すること  
【希望と勇気, 克己と強い意志】  
より高い目標を設定し, その達成を目指し, 希望と勇気を持ち, 困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

### 2 ねらい

ヘレン・ケラーを支援したアニー・サリバンの物語を通して, 困難に直面しても, 信念をもって自らの仕事に取り組むことの大切さについて考えさせ, 自分も目標に向かって努力しようとする実践意欲と態度を育てる。

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

充実した日々や人生を送るには, 現状をただ受け入れるのではなく, 目標に向かって現実をより良いものに変えていこうとすることが大切であろう。

目標実現の過程には, 困難なことがあっても立ち向かっていくことが, 充実した人生をおくることにつながっていく。時には, 夢や希望をもつことに不安を感じることもあるだろうが, やり遂げようと努力し続けることが自己実現につながっていくことに気づかせたい。

#### (2) 教材について

幼いころ, 視力を失いかけたアニー・サリバンが, 目と耳が不自由なヘレンと出会い, 様々な困難を乗り越えながらヘレンの志を支えていく物語である。世界的に有名な2人であるため, 生徒にとっては歴史上の偉人であり, 遠い存在と思われる。しかし, 目標達成のためには「しっかりと時間をかけること」や「手段や方法を柔軟に考えること」など, 希望をもって粘り強く取り組むことが大切なのだ実感させてくれる教材である。

#### (3) 生徒について

1年生のある学級(31名)で, ヘレン・ケラーとアニー・サリバンを知っているか事前に尋ねた。ヘレンが生まれながら目と耳が不自由であることを知っている生徒は31名中14名。アニーがヘレンに文字を教え, 話せるようになるまで指導したことを知っている生徒は12名。2人のどちらの名前も知らない生徒は7名であった。知っている生徒は, 昔の偉人という感覚でとらえている様子であった。

「過去に苦しくても乗り越えた経験があるか」という問いでは, 自分の所属するスポーツ少年団等の練習を続けて大会で成績を上げたことや, 不得意な教科に毎日家庭学習で取り組み得意になったこと, 長く問ピアノの練習を続け, その成果を発表したこと, リーダーとして不安な気持ちでありながらもみんなをまとめた経験などがあり, 「特に困難を乗り越えるような経験はない」と答えた生徒は4名だった。

経験がある生徒については, 小さなことであっても乗り越えるときには, 勇気や工夫, 判断があったことを自覚させたい。

### 4 本時の指導

#### (1) 本時のねらい

2人は歴史上の偉人として知られていることから, 生徒が自分とはかけ離れた存在と思ってしまうことが考えられる。「ヘレンとアニーは彼らがもともと優れた資質を兼ね備えていたからできたのだ」という結論にとどまってしまうように, 生徒がアニーの立場だったらどう思うかをくり返し問いたい。生徒は, グループ内で考えを交流しあい, 多様な考え方にふれることができるようにする。

また, 生徒はアニー・サリバンよりも, 目・耳ともに不自由だったヘレンに意識が向きやすいことが予想される。アニー・サリバンの生き方を軸にして, ねらいから反れないように進めたい。

アニー・サリバンの試行錯誤によるあきらめない支援が, 紆余曲折を経て実っていくそれぞれの場面について, アニーの気持ちに生徒自身の気持ちを重ねて考えさせたい。そして, これから出会うであろう困難にどういう気持ちで向き合うかを考えさせたい。

	学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援・留意点
前時	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書時間に教材を読む。</li> <li>大まかな内容を理解する。</li> <li>今まで困難だと思ったことで乗り越えた経験を思い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さなことでも自分が乗り越えたと思う経験を記入させ、「心のものさし」シートに貼らせる。</li> <li>付箋1人4枚を配っておく。(1人ずつ色を分ける。名前を書いておく。)</li> </ul>
導入 5分	1 テーマの確認 2 アニーとヘレンについて内容の確認をする。(DVD 視聴)	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニー自身が視力が極めて弱く、目が見えることが素晴らしいこと、目が見えない人の役に立ちたいと強く思ったことを押さえさせる。</li> </ul>
展 開 1 10分	3 アニーの気持ちから考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(1) 初めてケラー家に行った翌日の朝</div> アニーは食事を手づかみで食べるヘレンを見てどう思ったか。自分がアニーだったらどんな気持ちだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>これはもうだめだ、やめて帰ろう。</li> <li>まだ最初だから、これから頑張ればきちんとできるようになる。</li> <li>しばらく努力してみて、それから考えよう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(2) 小屋での2人きりの生活</div> お祝いのパーティーを開くことになった時アニーはどんな気持ちだったか。もし自分がアニーだったらどんな気持ちだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの努力が報われた。</li> <li>この小屋での生活でよかったんだ。</li> <li>やり方は正しかったんだ。</li> </ul> 黒板の「心のものさし」の自分の決めた位置に自分の気持ち付箋を貼る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)について「心のものさし」シートに自分の位置を決めて付箋を貼らせる。</li> <li>アニーがとった行動について気づかせる。 →両親から離れた生活。指文字を教え続ける。</li> <li>別の資料の「小屋での生活」を教師が読んで聞かせる。</li> <li>(2)について「心のものさし」シートに自分の位置を決めて付箋を貼らせる。</li> <li>(1)から(2)への気持ちの変化について、グループ内で意見交流させる。アニーがケラー家に来た最初のころの気持ちをふりかえりながら考えさせる。</li> <li>気持ち付箋を黒板に貼らせ、数名に発表してもらう。</li> </ul>
展 開 2 10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(3) ケラー家のパーティーの席での出来事</div> 食事を手づかみで食べるヘレンを見たアニーはどんな気持ちになったか。自分がアニーだったらどんな気持ちだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今まで努力したのになぜこんなことになるの？</li> <li>もうやめよう無理だ。</li> <li>他に何か方法はないかな？</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(4) 「井戸端の奇跡」の場面</div> ヘレンがすべてのものには名前があると気づいた瞬間、アニーはどんな気持ちだったでしょうか。もし自分がアニーだったらどんな気持ちだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで頑張ってきてよかった。</li> <li>やってきたことは正しかった。</li> <li>もう大丈夫。ヘレンは自分で頑張れる。</li> </ul> 黒板の「心のものさし」の決めた位置に自分の付箋を貼る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>別の資料の「パーティーの席で」を教師が読んで聞かせる。</li> <li>(3)について「心のものさし」シートに自分の位置を決めて付箋を貼らせる。</li> <li>アニーがとった行動について気づかせる。 →食事の態度を許さないこと。小屋での生活を続けること。指文字を続けること。</li> <li>別の資料の「井戸端の奇跡」を教師が読んで聞かせる。</li> <li>(4)について「心のものさし」シートに自分の位置を決めて付箋を貼らせる。グループ内で意見交流させる。</li> <li>(3)から(4)への気持ちの変化について、グループ内で意見交流させる。アニーがケラー家に来た最初のころの気持ちをふりかえりながら考えさせる。</li> <li>黒板に自分の付箋を貼らせる。</li> <li>数名に発表してもらう。</li> <li>アニーがヘレンの教育について、くじけそうになりながらも、努力してきたことをふりかえらせる。</li> </ul>
展 開 3 12分	4 全体交流 — 中心発問 — <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">やり抜くために大切にしなければならないことはどんなことだろうか。</div> 自分の考えを書く。グループ内で交流する。 グループ枠を超えて自分が聞きたいと思う友達の所へ行って考えを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニーがのちに語った言葉を提示して、小さなことであっても乗り越えることには意義があることを受け止められるようにする。</li> <li>今までの自分の乗り越えたことを見ながら書かせる。</li> <li>グループ内で意見交流させる。</li> <li>交流後、数名に考えたことを発表してもらう。</li> </ul>
終末 13分	5 ふり返り 今日の学習で考えたことをふりかえり記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業で「自分」「友達」「これから」のうちどれについて一番考えたと思うか 印をつけてもらう。</li> <li>時間があれば、数名に発表してもらう。</li> </ul>

## ② 授業づくりにおいて工夫した点

- ◎ 前時に、人物について大まかに理解する時間をとった。
  - ◎ 資料は事前に読ませ、本時は考え、対話する時間を十分確保できるようにした。
  - ◎ 話し合いを進めやすい3～4名の8グループ構成とした。
  - ◎ テーマを最初に提示した。
  - ◎ テーマを生徒にわかりやすい表現にした。
- 【希望と勇気、克己と強い意志】→【あきらめない心】
- ◎ 全ての生徒が「心のものさし」に付箋を貼ることで、生徒全員の参加を促し、自分と他の考えの違いや変化が見えやすいようにした。
  - ◎ 教科書にはない、実話を紹介してテーマについての考えを深められるようにした。

## ③ 板書



## ④ 生徒の学習シートから

- ◇あきらめる前に行動することや、勇気、努力についてもっと考えようと思いました。
- ◇友達が「やり抜く方法」をたくさん考えていてすごかった。「努力」「自信」「勇気」「やる気」という言葉が心に残った。
- ◇僕は、「自分がやり抜くために大切にしなければいけないこと」は前向きな気持ちだと考えました。友達の考えでは、何事もあきらめず、努力するという考えが出て、僕もそれに納得し、共感しました。僕はこの考えをもとに、何か挑戦する時があったら、前向きな気持ちや、何事もあきらめない、ということ大切にしていきたいと思います。
- ◇サリバン先生は、どんなに難しいこともあきらめず、努力していました。私も今までの生活を見直し、あきらめず努力しようと思いました。そして、人のことを考えられるような人になりたいと思いました。
- ◇自分のやれることを大切に、最大限まであきらめないでやるのが大切だとわかった。勇気をもって行動することも大切だと思った。

## ⑤ 成果と課題 (○成果 ▲課題 ★提案)

- 自分事にとらえる授業だった。
  - 「心のものさし」に自分の気持ちのふせんを貼ることで、考えの変化がわかりやすかった。
  - 「心のものさし」を見ることで、生徒の対話が充実していた。
  - 振り返りシートの構成がよかった。これからの生き方につながることを書かせていることがよかった。
  - テーマを最初に提示することによって、何をつかませたかがはっきりしてぶれなかった。
- ▲板書が多い。絵だけでもよかったのではないかな。
  - ▲「心のものさし」は4つ使ったが、ポイントを絞って貼らせるのがよい。
  - ▲発問が多い分、1つ1つの話し合いの時間が十分に確保できなかった。資料の一部分に絞って話し合えば深まったのではないかな。
  - ▲話し合いなのか、交流なのかがはっきりしなかった。
  - ▲子どもたちの発言から広げていく場面が1つでもほしかった。
  - ▲「あきらめない心」は大切だけれどやり抜くことは大変である、という人間の弱さについても考えないと深まらない。自分に置き換えて考えさせることがあればよかった。
  - ▲発問について「自分だったら」なのか、「アニーの立場」なのかが平行していた。絞って聞くことが必要。
- ★ヘレンや、サリバン先生の立場になって、手のひらに文字を書く動作化の場面があると考えが深まる。
  - ★貼ったふせんに意見を書いてもよい。
  - ★友達のところに行って話を聞く場合は、自分が好きな人ではなく、だれに聞きに行くか決めるとよい。

(2) 2学年の実践例「秀さんの心」

① 指導案

## 第2学年 道徳学習指導案

日 時 令和1年10月21日(月) 5校時  
学 級 雫石町立雫石中学校2年3組  
(男子16名 女子14名 計30名)  
授業者 教諭 朴澤 かおり

### 道徳科研究主題

人間としてのよりよい生き方を共に考え、語り合う生徒の育成  
～道徳科における、思考の深化を図る対話の充実と指導の工夫～

- 1 主題名 「礼儀」
- 2 指導内容項目 B(7) 礼儀
- 3 資料名 秀さんの心(光村図書 中学道徳2 きみがいちばんひかるとき)
- 4 主題設定の理由

(1) 価値について

本時の主題「礼儀」に関して、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」には、内容項目B「主として人との関わりに関すること」の(7)として「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。」と示されている。「礼儀」は、他者に対するものであり、身に付けておくべき外に表す形である。具体的には言葉遣い、態度や動作として表現される。社会生活の秩序を保つために守るべき行動様式であり、長い間に培われた慣習を表すものである。礼儀の基本は、相手の人格を認め、相手に対して尊敬や感謝などの気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって初めてその価値が認められると考えられる。

「礼儀」に関して、小学校学習指導要領には「気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。」「礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。」「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。」と示されており、成長に応じてまず礼儀の「形」を学び、そこには「心」がともなうべきであることを学んでいる。中学校の段階では、形としての礼儀に心を込めるのではなく、相手を敬う心が形として表れる態度や振る舞いが礼儀であると学ぶ。この礼儀にかなった言動が互いを結び合わせるものであるからこそ、礼儀が人間の生き方の基本として社会規範をも意味する行為であることを理解するきっかけとして、本主題を設定した。

(2) 生徒について

学級目標を「貫(つらぬく)～輝く・思いやる・理解し合う～」とし、それぞれの個性を大切にしながら互いを思いやり、理解し合うことで支え合って、一つの目標に向かっていける学級を目指して生活してきた。学習意欲の高い生徒が多く、授業もよく理解しているが、積極的な挙手発言は少ない。また、自分の考えや気持ちを言葉にして表現できる生徒は、ごく少数である。日常生活においては、ルールやマナーを守って行動できる生徒が多く、普段は自分勝手な行動が見られる生徒も、職場体験のときには、事業所の方に褒められるほど仕事にきちんと取り組むことができた。しかし日常の礼儀はやはり身につけているとは言えない生徒も少なくない。

役員選挙の時期を迎えて、リーダーとして周囲の手本になろうとする生徒が増えてきた今、この資料を通して、「礼儀」の意義について、じっくり考えさせたい。

(3) 資料について

造園業を営む事務所で職場体験をすることになった昌雄と久志が、造園職人である秀さんとの関わりから、礼儀の大切さや、その意味について考えていくという展開になっている。本時は、登場人物それぞれの「礼儀」をなぞりながら、秀さんにとっての「礼儀」を考えることで、自分事としてとらえながら価値を深め、実践意欲につなげていきたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

職場体験で、心のこもった礼儀の在り方にふれた2人の生徒の物語を通して、礼儀の意味について考えさせ、時と場になつた適切な行動をとろうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 展開

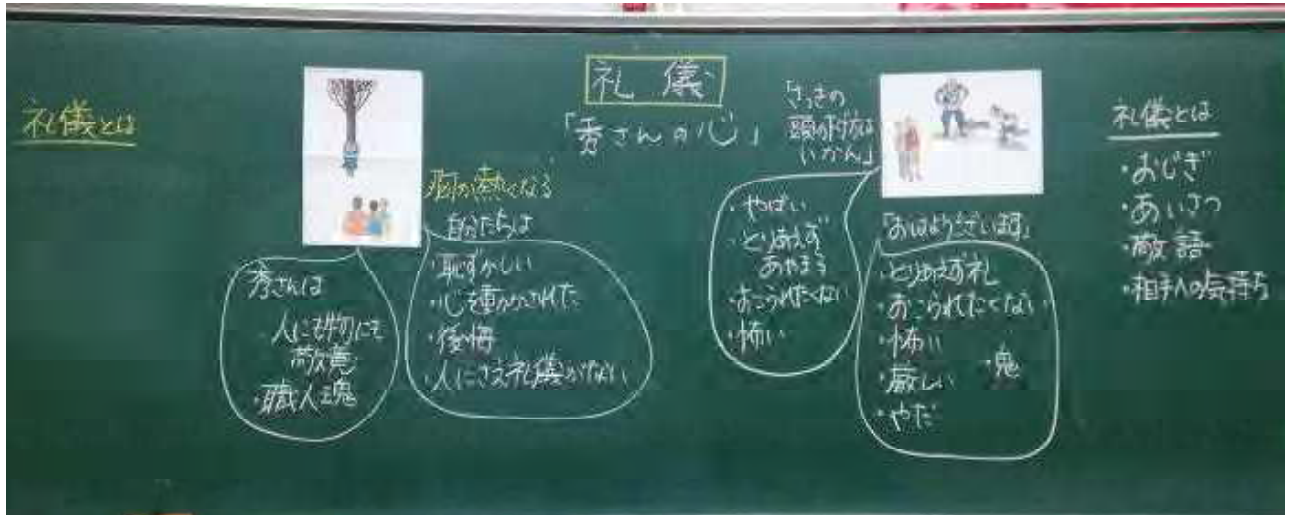
階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 ねらいとする道徳的価値を意識する。 ○「礼儀」ってなんだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと礼をすること。</li> <li>・言葉遣い。</li> <li>・表情。</li> <li>・気持ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀の「形」について確認する。</li> </ul>
	「礼儀」には、どのような意味があるのだろうか		
展 開	2 登場人物を確認し、「礼儀」の場面は具体的にイメージさせながら資料を読む。  ○「そ、それでは・・・、おはようございます。」と、慌てて言った二人はどんな気持ちだっただろう。  3 資料の続きを読んで「昌雄」の状況をつかむ。  →「深々と頭を下げた」と「会釈」を比較。そのときの表情も確認。  ○「さっきの頭の下げ方はいかん。お客様には、きちんと挨拶をするんだ。」という秀さんの言葉を昌雄はどのように受け止めたのでしょうか。  4 資料を最後まで読み、「昌雄」の気づきを共有する。  ◎昌雄は胸が熱くなるのを感じながら、どんなことを考えていたのでしょうか。  →秀さんにとって礼儀とはどんなもの？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秀さん怖い。厳しそう。</li> <li>・ちゃんとやらなきゃ。</li> <li>・これからめんどくさい。</li> <li>・会釈は簡単。深々と…は気持ちをつくらないといけない。</li> <li>・うるさい。</li> <li>・めんどくさい。</li> <li>・職場体験が早く終わってほしい。</li> <li>・きちんとあやまりたい。申し訳ない。</li> <li>・ごまかそうとした自分が情けない。</li> <li>・自分が恥ずかしい。</li> <li>・秀さんはかっこいい。</li> <li>・相手に対する尊敬や感謝を伝えるもの。</li> <li>・自分の職業への想い・誇り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*P93の9行目まで読んで、資料を閉じる。</li> <li>・その場に立って実際に言ってみる。</li> <li>*続きをP94の9行目まで読んで、閉じる。</li> <li>・仕事先での挨拶をやってみる。</li> <li>・すぐに謝って仕事に戻った昌雄もやってみる。</li> <li>・その場では怒らなかった秀さんの配慮にも触れる。</li> <li>*最後まで読んで、資料を閉じる。</li> <li>・深くおじぎをしている秀さんの絵を貼る。</li> <li>・学習シートに記入。</li> <li>・板書</li> </ul>
終 末	5 「礼儀」についてまとめる。 (1) 「礼儀」の意味について考えたことを個人で書いてまとめる。 (2) 全体で交流する。  6 ふりかえり	<p>(期待したい内容例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・礼儀は、相手に対する感謝や尊敬の心を行動に表したものだ。</li> <li>・礼儀は、誰に対しても自分の気持ちが伝わるように態度で示すこと。</li> <li>・礼儀について考えたので、これからは相手に対する感謝や尊敬の心が伝わるように心がけたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートに記入</li> <li>・振り返りシートに記入。</li> <li>→学習シートを見ながら自分の考えが深まったことや新たな気づきについてふれながら書けるようにする。</li> <li>・シートを回収する。</li> </ul>



## ② 授業づくりにおいて工夫した点

- ◎ テーマを最初に黒板の中央に提示した。
- ◎ 話し合いを進めやすい3～4名の8グループ構成とした。
- ◎ 礼儀とは、「相手とよい距離を保つために必要なもの」ととらえて授業を構成した。
- ◎ 最初と最後に同じ発問をして、生徒の考えの深まりを把握することにした。
- ◎ 授業の中で、実際におじぎをする場面をつくった。
- ◎ 場面で区切り、心情をとらえやすくした。

## ③ 板書



## ④ 生徒の学習シートから

- ◇「礼儀とは何か」についてじっくり考えることができた。「自分のためじゃなく、相手のため」という考えに感動した。自分も相手を思って接したい。
- ◇自分は相手のことより、自分を優先してしまうことがあるので、視野を広く持ち、誰にでも「ありがとう」と言える人になりたい。
- ◇「何かをしてもらったらありがとう」じゃなくて、「あたり前なこともありがとう」という気持ちを持つこと。自分に関わる全てのモノに感謝、尊敬することだと思った。
- ◇いつもはおじぎも挨拶も適当だったが、秀さんが考える礼儀のことを思うと、そんなことをやっている自分が恥ずかしくなった。
- ◇何ごとにでも「ありがとう」という気持ちを忘れてはいけないことが学べた。
- ◇礼儀とはお世話になったり使ったりしたものに対する感謝を行動に移すこと。これからは、礼儀について深く考えて行動したい。
- ◇自分は恥ずかしがったり、何かしらの理由をつけて逃げてしまうので、秀さんのように、常に感謝の気持ちを行動に表していきたい。

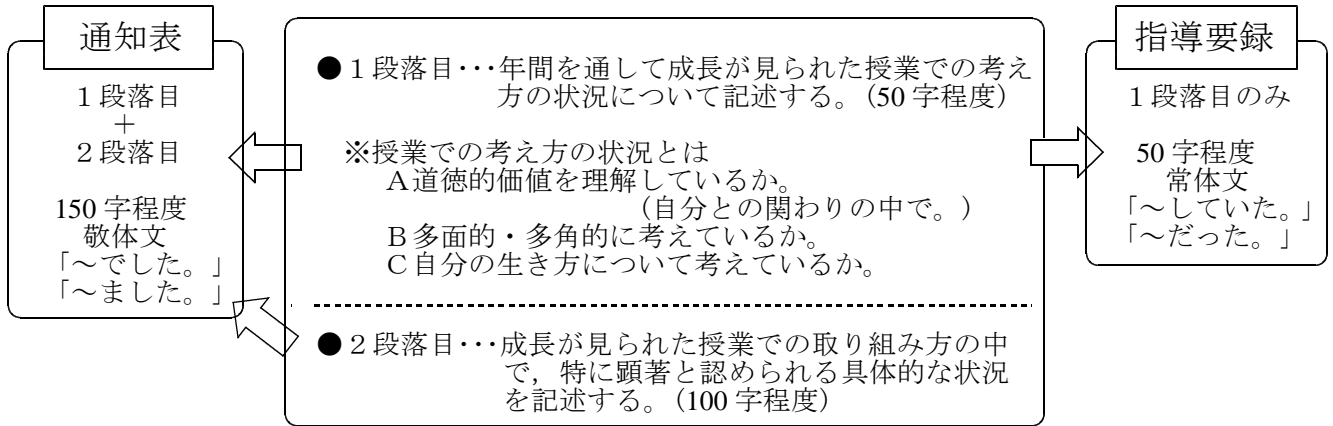
## ⑤ 成果と課題 (○成果 ▲課題 ★提案)

- テーマ発問で始まり、テーマ発問で終わることで、深まりが感じられた。自分事にとらえる授業だった。
- わかりやすい構造的な板書であった。
- 「おじぎ」の動作化が工夫されていた。
- 主発問「胸が熱くなり…」から補助発問（つなぐ、広げる、深める）のつながりがよかった。
- ▲発問の内容がはっきりしないところがあった。意図したことからずれていったところがあった。
- ▲間の取り方や、書くのをやめさせて聞かせることも必要。
- ▲対話、議論が少なかった。生徒がメモに集中し、書くことがメインになっていた。
- ★本文を途中で区切る手法には良さがある。いっきに先生の判読でもっていくこともできた。
- ★発問をはっきりさせて考えさせる。発問を板書してもよい。
- ★多面的多角的に考えさせるために、ホワイトボードを活用するなど、全員で交流させる手立てが必要。
- ★ホワイトボードを使って、考えを可視化すればよかった。
- ★それぞれの登場人物のおじぎについて深めていけばよい。
- ★ふり返りの視点として今の自分をふり返らせて、これからの考えさせるとよい。
- ★対話が活発ならば考えが深まっている、対話が活発ではないから考えが深まっていないというわけでもない。「対話」という形だけにとらわれず、学級の実態や教材によって静かに考えを深める授業があってもよい。

### 3 生徒の成長を認め、励まし、意欲を高める評価のあり方の検討

#### (1) 評価文作成の基本的な考え方

本校での道徳科の評価は、年1回3学期末に行うこととした。評価文は2段落構成として、通知表と指導要録について以下のように記述することにした。



#### (2) 学習シートに基づいた評価文の作成

##### ① 2学期前半までの学習シート（1学年の場合）

本校では、2学期前半まで全校で学習シートの様式を統一しないで、学年ごとの様式であった。毎時間新しいシートに記入する方法をとった学年もある。6回の授業を一区切りとして、生徒には自分が記入した6枚のシートが返却される。生徒は6枚のシートから、心に残った授業を1つ選び、学習シートに記入する方法をとってきた。

1学年では、1枚の学習シートに、毎時間記入していく様式とした。1枚であれば、生徒が積み重ねた記述からその生徒の変容や成長が把握しやすいと考えた。

6～7回授業を終えたあと、これまでの授業をふり返る時間をとり、一番心に残っている授業についてどのようなことを学んだか記入させる。

毎時間の授業では、生徒は中心発問について「自分が思ったこと・考えたこと」の欄に自分の考えを記入する。グループでの話し合いや全体での発表を聞いて「心に残った友達の考え」の欄に記入する。授業の最後に「授業をふりかえて…」の欄に記入する。

#### ＜ 1学年の学習シートの様式 ＞

1年道徳「きみがいちばんひかるとき」

1年 組 番名前

---

◎今日の道徳の時間で、あなたが一番力を入れたと思うことは次のどれですか。

- ・「自分」がふだんどのように考えたり、行動したりしているか、ふりかえることができた。
- ・「友達」の考えを聞いて、別の立場から考えることができた。
- ・「これから」自分は、どのようにしていきたいか、考えることができた。

(それぞれの授業の終わりに○をつけましょう。)

		自分が思ったこと 考えたこと	心に残った友達の考え	授業をふりかえて「思ったこと、 考えたこと」や、自分の考えが 「変わった、深まった」と思うこと	
シ ー ズ ン 1	1	自分で決めるって？ 【自主・自立 ・自由と責任】 (自分・友達・これから)	道徳的価値に 関わる考え	多面的・多角的な 考え	授業のふり返り
	2	自然教室での出来事 【節度・節制】 (自分・友達・これから)			

---

ここまでの授業で、あなたが一番心に残っている内容はどれですか。どんなことが心に残っていますか。また、考えが広がったり、自分がこれからこんなふうにしていきたい、と思ったりしたことも教えてください。

【一番心に残っている内容は…】

.....

.....

.....



② 評価文作成の手順

次の手順に沿って作成した評価文の例を示す。

- シートの記述を3つの視点で分類する。

A 道徳的価値を理解しているか。……………イエロー (自分との関わりの中で。)
B 多面的・多角的に考えているか。……………グリーン
C 自分の生き方について考えているか。……………ピンク

- 1段落目は、全体を見渡して考え方の特徴的な成長を50字程度の文章にする。
- 2段落目は、特徴的だったA, B, Cについて、特に顕著と認められる具体的な授業の状況を100字程度の文章にする。

1年道徳「きみがいちばんひかるとき」

組 番 名 前

◎今日の道徳の時間で、あなたが一番力を入れたと思うことは次のどれですか。

- ・「自分」がふだんどのように考えたり、行動したりしているか、ふりかえることができた。
- ・「友達」の考えを聞いて、別の立場から考えることができた。
- ・「これから」自分は、どのようにしていきたいか、考えることができた。(それぞれの授業の終わりに〇をつけましょう。)

月	教材名	自分が思ったこと 考えたこと	心に残った友達の考え	授業をふりかえて「思ったこと、 考えたこと」や、自分の考えが 「変わった、深まった」と思うこと
シ ズ ン	7 私の話を聞いてね 【相互理解・寛容・公正 ・公平・社会正義】 自分・友達・これから	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
	8 席を譲ったけれど 【思いやり・感謝・ 相互理解・寛容】 自分・友達・これから	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
	9 【よりよい学校生活・ 集団生活の充実】 自分・友達・これから	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
	10 魚の涙 【公正・公平、社会正義、 友情・信頼】 自分・友達・これから	魚はしゃべれず、せまい世界に入れられたら、自力ではぬけ出せないけど、人間はしゃべれるし、せまい世界から自力でぬけ出せる力を持っていると思う。	魚はしゃべれないからいじめられている魚を助けることはできないけど、人間はしゃべれるからいじめをやめさせられる。魚は話を聞いたり、励ましたりしてあげることはできないけど、人間はできる。	人間は心に感情があるから、魚と違っていじめを止めることができる。だから、人の感情を大切にしていけば、いじめはなくなると思う。人間は魚と違って改善できる力があることを忘れずに生きていきたい。
11	捨てられた悲しみ 【生命の尊さ・自主・ 自立・自由と責任】 自分・友達・これから	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○
12	六十二枚の天気図 【真理の探究・創造・ 節度・節制】 自分・友達・これから	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○

これまでの授業で、あなたが一番心に残っている内容はどれですか。どんなことが心に残っていますか。また、考えが広がったり、自分がこれからこんなふうにしていきたい、と思ったりしたことも教えてください。

【一番心に残っている内容は…】

魚の涙

私は、魚の涙が一番心に残っています。なぜかというと同じ人間どうしなのに、人をいじめたりする。それが魚の世界でも起きていることを知ったからです。私は今回のこの授業で、人間はなぜ同じ人間をいじめてしまうのか。いじめをなくすにはどうしたらよいかなどを考えました。そのとき、人は、魚と違って感情があるからいじめを止めることができる。もし、周りでそのような場面を見たら、自分から止めたいと思いました。

評価文例  
(通知表の場合)

1段落目： 自分自身をふり返り、わかっていても行動に移すことが難しい時には どうすればよいかなど、具体的な改善策を考えていました。(58字)

「A 道徳的価値」「C 生き方」について考えを深めていることに着目した。

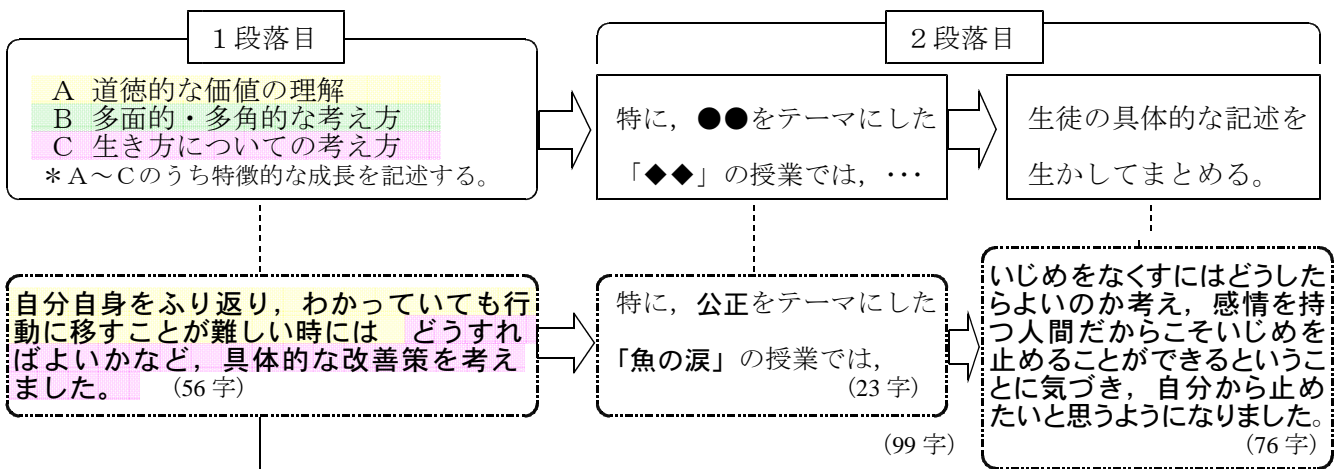
2段落目： 特に、公正をテーマにした「魚の涙」の授業では、いじめをなくすにはどうしたらよいかを考え、感情を持つ人間だからこそいじめを止めることができるということに気づき、自分から止めたいと思うようになりました。(99字)

授業の中で顕著と認められることを生徒の具体的な記述を生かしてまとめる。

評価文を次の文型で表すこととした。評価文が、文型にどのように対応しているかについては [ ] に示す。指導要録の記述例は [ ] に示す。

<評価文例1>

通知表に記載する評価文



指導要録に記載する評価文  
通知表の1段落目を常体文に

自分自身をふり返り、わかっているけど行動に移すことが難しい時には どうすればよいかなど、具体的な改善策を考えました。(54字)

<評価文例2>

(生徒の学習シートの記述より一部抜粋)

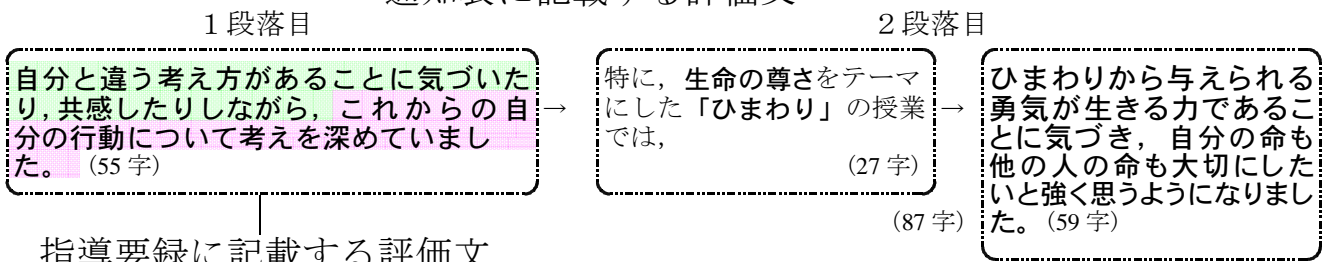
教材名	自分が思ったこと 考えたこと	心に残った友達の考え	授業をふりかえって「思ったこと、考えたこと」や、自分の考えが「変わった、深まった」ということ
ひまわり 【生命の尊さ】 (自分・友達 <u>これから</u> )	ひまわりは清和さんにとって、いつも勇気をくれる存在だと思いました。	ひまわりは、いつも身を守って勇気を与えてくれるという考えがいいなあと思った。	この授業を通して、命の大切さや生きていくことの意味を改めて考えることができたので <u>これからは、自分の命も他の人の命も大切にしていきたい</u> と思いました。

【一番心に残っている内容は…】

ひまわり

命の大切さや、生きていくことの意味が「ひまわり」の授業を通して、改めて考えることができた。  
これからは、相手の気持ちを考えて行動するようにして、自分の命も他の命も大切にしていきたい。

通知表に記載する評価文



指導要録に記載する評価文

自分と違う考え方があることに気づいたり、共感したりしながら、これからの自分の行動について考えを深めた。(51字)

③ 全校統一学習シートの様式と作成した評価文例

生徒の記述内容を「A自分」「B友達」「Cこれから」の視点で色分けをして、実際に評価文を作成する演習を通して分かってきたことは、以下の点である。

- ・生徒の記述のすべてを3つの視点で色分けして整理することに、かなりの時間を要する。
- ・A～Cの中で、成長が見られる特徴的な1つの視点にしぼって評価するために、シートに分散している生徒の記述を目で追って文章化しなければならないので把握しにくい。

生徒の学びをより適切に把握するためにシートを次のように改善した。

(3学年の例)

3年道徳「きみがいちばんひかるとき」

3年 組 番 名 前

		授業の中で		授業をふり返って (A～Cのうち、今日一番力を入れたことについて書きましょう。)		
		自分が 思ったこと 考えたこと	心に残った 友達の考え 自分と同じ・ちがう 考えで心に残った こと	A自分 をふり返った り解決策を考えたり しながら今日のテ マについて深く考え ることができた。	B友達 の考えを聞い たり、別の見方に気 づいたりしながら、 自分の考えを広げる ことができた。	Cこれから 自分 はどのようにしてい きたいか考えるこ とができた。
シ ー ズ ン 3 ②	19	闇の中の炎 【国の伝統と文化】				
	20	サグラダファミリア 受け継がれていく思い 【感動・畏敬の念】				
	21	先人の言葉「論語」 【向上心・個性の伸長】				
	22	私が目指した白 【真理の探究、創造】				
<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A, B, Cのうち、授業で自分が一番力を入れたと思う欄にふり返りを記入する。</li> <li>・ 生徒は「A自分」と「Cこれから」の2つに力を入れたと思う時は、AとCの2つの欄に記入してもよい。</li> <li>・ 蓄積された生徒の記述の様子から、その生徒がA, B, Cのどの項目についての記述が多いかに着目し、1段落目の評価文を作成する。</li> </ul> </div>						
	26	恩讐の彼方に 【相互理解・寛容】				

【一番心に残っている内容】

\*学んだことを書きましょう。

(心に残っていること。考えが広がったこと。これからこんなふうにしていきたい。…など。)

.....

.....

.....

上記A, B, C欄の記述の様子と、一番心に残った授業の記述の内容を合わせて、2段落目の評価文を作成する。

<評価文例 3>

(生徒の学習シートの記述から一部抜粋)

		授業の中で		授業をふり返って (A~Cのうち、今日一番力を入れたことについて書きましょう。)				
		自分が 思ったこと 考えたこと	心に残った 友達の考え 自分と同じ・ちがう 考えで心に残った こと	A自分 をふり返った り解決策を考えたり しながら今日のテー マについて深く考え ることができた。	B友達 の考えを聞い たり、別の見方に気 づいたりしながら、 自分の考えを広げる ことができた。	Cこれから 自分 はどのよう にしてい きたいか 考えるこ とができ た。		
シ ー ズ ン 3 ②	19	私が働く理由 【勤労】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□			◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎	
	20	仏の銀蔵 【遵法精神・公德心】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□			◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎	
	21	なおしもん 【郷土の伝統と 文化の尊重】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□	○○○○○ ○○○○○			
	22	鳥が見せて くれたもの 【自然愛護】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□		◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎
	23	日本のお米 【伝統と文化の尊重】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□				◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎
	24	異文化の人々と 共に生きる 【国際理解・国際貢献】	日本人は外国の 文化を知らない し、外国人は日 本の文化を知ら ないので、互い に教え合い、認 め合い、理解し ていかなければ ならない。	自分の国の文化を 優先するのではな く、他国の文化も 理解し、互いに嫌 な気持ちにならな いように行動す る。	もし自分が他の国に いるとしたらその文化に 慣れるのも大変だと思 うので、外国人がいて 困っていたら進んで助 けたいと思いました。	他の文化を否定する人 はいなかったから安心 しました。	普段外国人とは関わ らないけれど、違う 文化や考えを持つ人 がいるので、理解し ていかなければい けないと思ったし、日 本人でも互いの考え を理解していきたい。	

\*学んだことを書きましょう。

【一番心に残っている内容】

(心に残っていること。考えが広がったこと。これからこんなふうにしていきたい。…など)

異文化の人々と  
共に生きる

私たちの文化と、外国の文化は違うけれど、授業を通してお互いに理解していかなければならないことを学んだし、同じ文化でも、違う考えをもつ人がいるので、自分のことだけでなく、相手のことを考えた行動を心がけていきたいと思った。

通知表に記載する評価文

1 段落目

2 段落目

自分とは違う感じ方や考え方があることを理解し、ものごとを別の立場から見たり考えたりするようになりました。(52字)

特に、国際理解をテーマにした「異文化の人々と共に生きる」の授業では、(34字)

違う文化や考え方を持つ人がいることをふまえて、日本人どうしでも互いの考えを理解して、相手のことを考えた行動を心がけたいと思うようになりました。(71字)

(105字)

指導要録に記載する評価文

自分とは違う感じ方や考え方があることを理解し、ものごとを別の立場から見たり考えたりするようになった。(50字)

<評価文例 4 >

(生徒の学習シートの記述から一部抜粋)

		授業の中で		授業をふり返って (A~Cのうち、今日一番力を入れたことについて書きましょう。)			
		自分が 思ったこと 考えたこと	心に残った 友達の考え 自分と同じ・ちがう 考えで心に残った こと	A自分 をふり返った り解決策を考えたり しながら今日のテーマ について深く考える ことができた。	B友達 の考えを聞い たり、別の見方に気 づいたりしながら、 自分の考えを広げる ことができた。	Cこれから 自分 はどのよう にしてい きたいか 考えるこ とができた。	
シ ー ズ ン 3 ②	19	私が働く理由 【勤 労】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□			◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎
	20	仏の銀蔵 【遵法精神・公德心】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□			◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎
	21	なおしもん 【郷土の伝統と 文化の尊重】	職人： 使っている 人が大切に しているか ら一生懸命 なおしたい。 お客： また使いた いからきれ いなおして ほしい。	職人： 輪島塗りのよ さを知ってほ しい。皆が喜 ぶものをつ くりたい。	生徒によっては「A自分」「B友達」の欄を選ばず、「Cこれから」欄のみに記入する場合もある。		今、さんさ踊りをやっ ていて、それ をできるだけ やめずにやり、 伝統を守って いきたい。
	22	鳥が見せて くれたもの 【自然愛護】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□			◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎
	23	日本のお米 【伝統と文化の尊重】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□			◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎
24	異文化の人々と 共に生きる 【国際理解・国際貢献】	○○○○○ ○○○○○	□□□□□ □□□□□			◎◎◎◎◎ ◎◎◎◎◎	

\*学んだことを書きましょう。  
(心に残っていること。考えが広がったこと。これからこんなふうにしていきたい。…など)

【一番心に残っている内容】

なおしもん

なおしもんによって、世代をこえて続いてきたものが、現在は職人の高齢化が進み、後継者がいなくなっていくのを知り、日本の文化が少しずつ減少していくと思ったので、今やっている雫石の文化の「さんさ」をできるかぎりやり続けていこうと思う。考え方が広がった。

通知表に記載する評価文

1 段落目

2 段落目

教材の登場人物に自分を置き換えて考え、具体的にイメージすることで、自分の生き方についても考えようとしていました。(56字)

特に、郷土の伝統と文化の尊重をテーマにした「なおしもん」の授業では、(34字)

自分が取り組んでいるさんさ踊りについて考え、自分が続けていくことによって伝統を守っていきたくないと考えるようになりました。(59字)

(93字)

指導要録に記載する評価文

教材の登場人物に自分を置き換えて考え、具体的にイメージすることで、自分の生き方についても考えようとした。(52字)



#### ④ 学習シートの記述に基づいた評価文作成の長所と課題点

##### <長所>

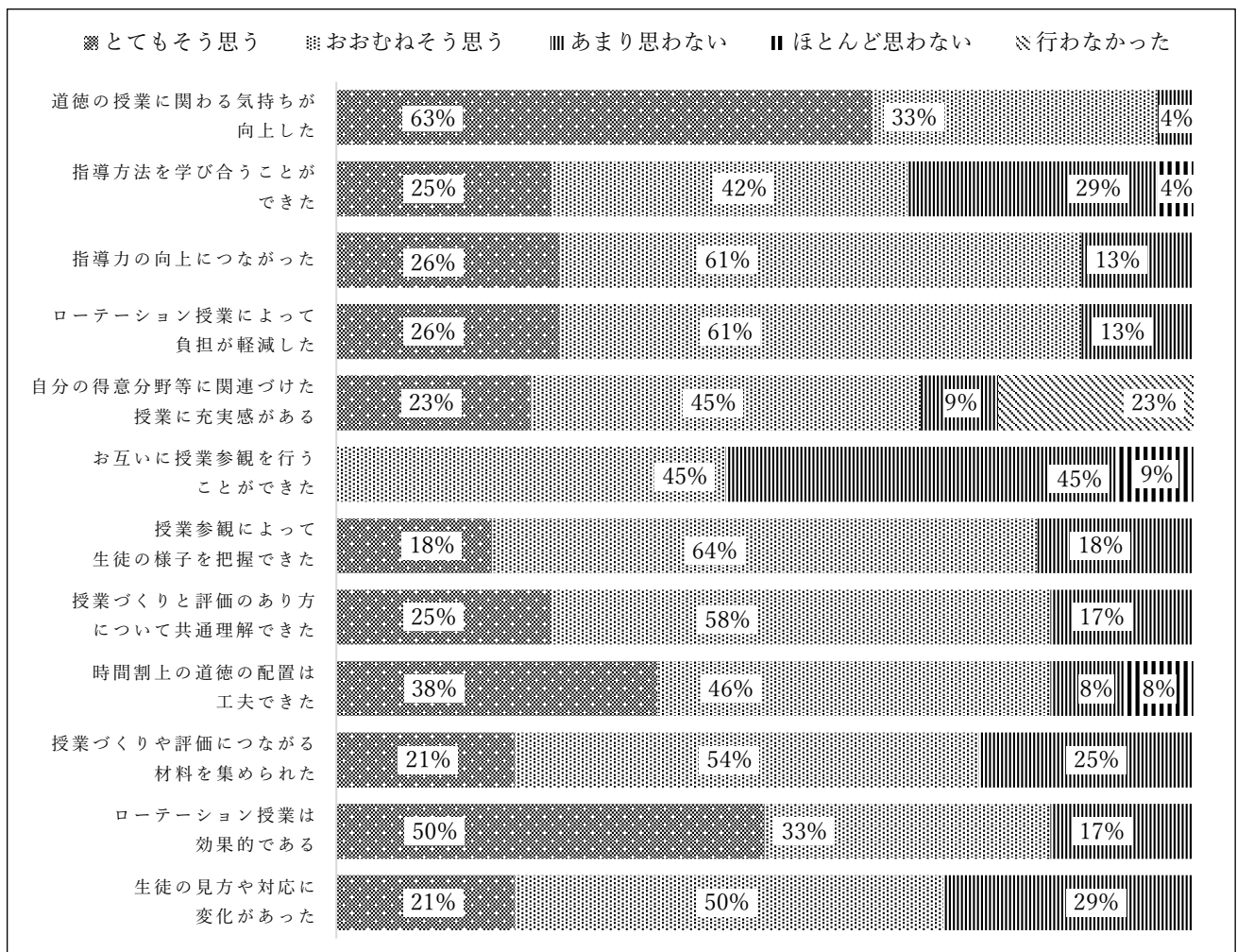
- ・一定期間の学習が記録として蓄積されていくことによって、生徒の成長を把握しやすくなり、評価する際の大きな手がかりとなる。
- ・「価値と自分自身との関わり」「多面的・多角的」な生徒の成長を把握しやすくなり、指導要録には、おおむね的確な記載ができるようになる。
- ・複数の教師の授業を受けることによって、生徒の記述内容が、一人の教師の授業の進め方や見方、考え方の影響を受けることが少ない。

##### <課題>

- ・一人の生徒のシートが1年で4枚～5枚となり、シートを見比べなければならない。そのため、全体を把握することに不便を感じる。
- ・通知表と指導要録は担任が記述するため、担任以外の教師が行った授業については、生徒のシートからだけしか成長を把握することができない。
- ・文を書くことや、気持ちを文に表すことが苦手な生徒の成長を把握することが難しい。
- ・授業での話し合いの様子や、表情から読み取ったことも合わせて評価することも必要である。他の先生が授業をしている時の生徒の表情を見ることができるのは、ローテーション授業の利点として生かしたい。

## 4 実践結果の分析と考察

### (1) 教師アンケートの結果から



#### ① ローテーション授業について

##### 〈成果〉

- ・同じ教材で複数回の授業を行うことができることにより、授業改善の検討がしやすく、その成果も実感できるため、道徳の授業を行うことに対する気持ちが前向きになり、積極的に取り組めるようになった。実践することがスキルアップにつながることも実感できた。
- ・担任外の教師も道徳授業に取り組んだことで、生徒の新たな一面に気づくことができたり、授業以外にも声のかけ方を工夫するようになったり、生徒理解を深めるきっかけになった。
- ・学年の実態に応じてローテーションの編成のしかたや時間割上の授業の配置を工夫し、柔軟に取り組むことができた。

##### 〈課題〉

- ・道徳は担任の時数にカウントされているため、担任は週担当授業時数が軽減したが、副担任は時数が増えることになり、負担が増した部分があった。
- ・道徳の時間の配置が変わる場合は、教務主任は複数学年の授業を担当する教師の教科を時間割に配置することが難しくなることがあり、調整が難しい。
- ・お互いに授業参観を行うことは容易でなかった。
- ・次年度以降も継続可能なローテーションの編成のしかたについて検討が必要である。

## ② 授業づくりの工夫について

### ＜成果＞

- ・ローテーション授業は、同じ教材で複数回の授業を行うことができるだけでなく、お互いの授業の工夫を学び合う機会も増えるので、授業力の向上という面でも効果的である。
- ・少人数グループでの話し合いや聴き合い学習、心のものさし、ホワイトボードの活用など、研究授業を通して提案された手立てについて、それぞれの教師が必要に応じて必要な形で取り入れることができた。
- ・道徳の授業づくりには、様々な工夫を取り入れられるということを実感できた。

### ＜課題＞

- ・話し合いが活発だったり、意見がたくさん発表されたりしても、価値理解が深まっているとは限らない。静かに書く時間が長かったから理解が深まっていないとも限らない。形だけにとらわれすぎず、学級の実態に応じたねらいを大切にしたい授業づくりをしていきたい。

## ③ 評価について

### ＜成果＞

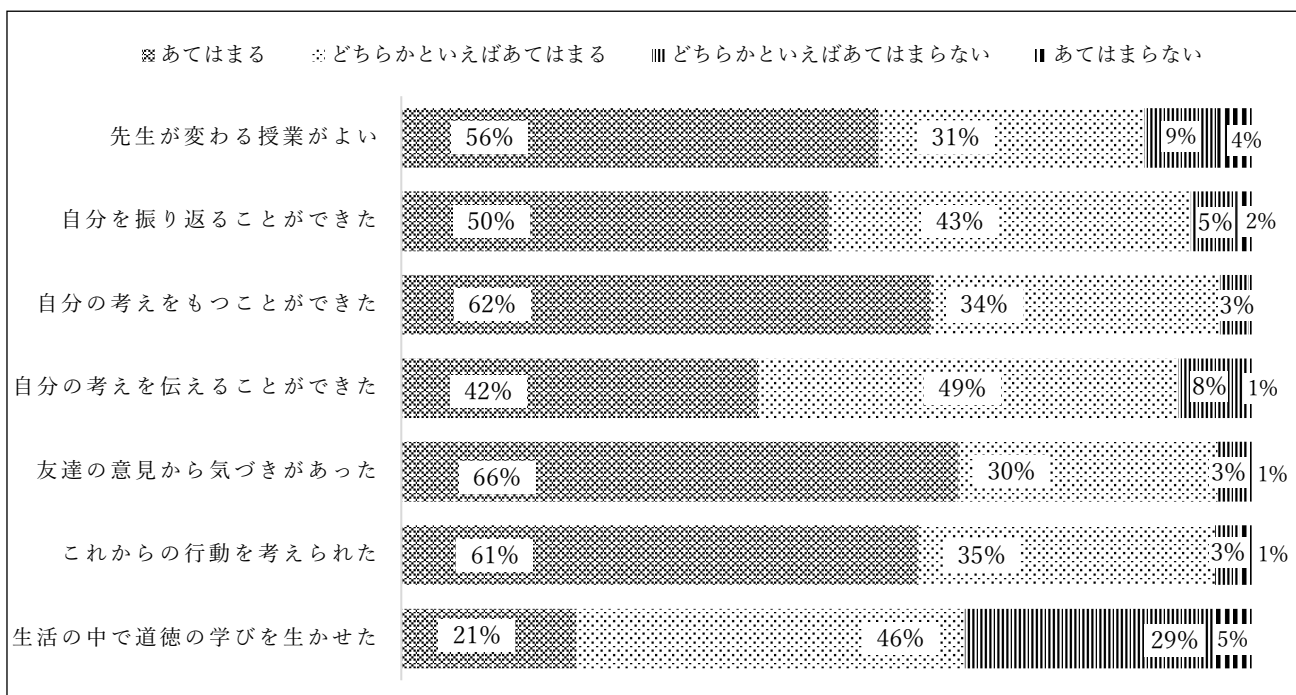
- ・評価の視点について学び、意識して授業を行うことで、生徒を観察する目が養われた。
- ・評価の視点を意識した学習シートを作成することで、ローテーション授業に関わる複数の教師が生徒の成長のようすを共有できた。

### ＜課題＞

- ・担任が自分の学級の授業を担当する回数が少なくなるため、学習シートの生徒の記述だけを手がかりに評価を記述するのは困難である。学級担任以外の教師が授業をおこなった場合は、教師が生徒の様子をメモしたり、担任が自分の学級を観察する機会を持ったりする必要がある。



## (2) 生徒アンケートの結果から



### ① ローテーション授業について

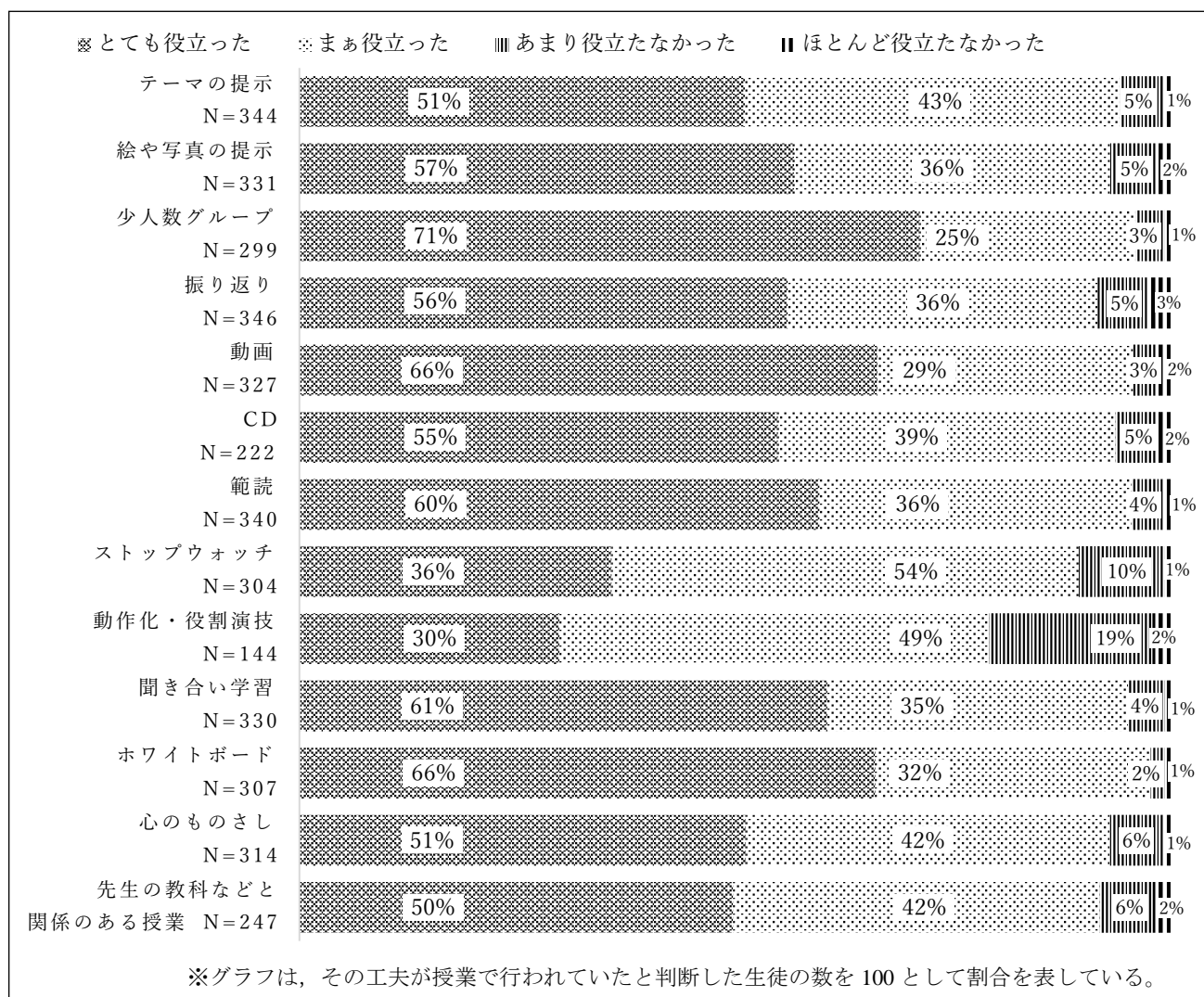
#### <成果>

- ・ローテーション授業（先生が変わる授業）のほうがよいという生徒が多い。その自由記述を見ると、「先生が変わる授業のほうが楽しい」「毎回新鮮で飽きない」「いろいろな先生の見方、考え方に触れることができる」「先生によって進め方が違っておもしろい」など、生徒にとっても概ね好評であるといえる。
- ・教師側の道德授業に対する気持ちが生徒にも伝わったのか、道德の時間に自分と向き合い、友達の意見から視野を広げ、これからの自分についても考えることができたという生徒がほとんどだった。「道德の授業を受けて良かったと思うことを教えてください」という項目でも未記入の生徒は少なく、「ふだんあまり考えたことのないことを深く考えることができた」「自分の考えをもつことができるようになった」「相手の気持ちを考えられるようになった」「様々な考え方があると知って、自分の考えを広げたり深めたりすることができた」「自分がこれからどうすればいいか自分で考えることができた」など授業を重ねたことで成長できた自分についての記述が多かった。他にも、印象に残った授業や理解の深まった価値項目のこと、授業の学びを生活で生かすことができた体験についての記述が見られたことから、自分事としてとらえることができていたと考えられる。

#### <課題>

- ・担任の授業がよいと答えた生徒の記述には「グループの作り方や話し合いの仕方が統一されていないと大変だし、ちょっとめんどくさい」「担任の先生の方が話しやすい」など素直な意見もあったので、今後の授業改善に生かしたい。
- ・自分の考えをもって相手の話を聞くことができるようになったので、次は自分の考えを相手に伝えること、そして生活の中に学びを生かすことができた実感できるようにすることが今後の課題になると考える。

## ② 授業づくりの工夫について



### 〈成果〉

- ・動画や写真、絵などの視覚的な情報によって場面がイメージしやすくなったり、登場人物の気持ちに共感しやすくなったりするため、自分の考えをもつことに役立つと考えられる。
- ・少人数グループでの活動、「聴き合い」を意識した活動、グループで話し合った結果をさらに交流するホワイトボードの使用について「役立った」と感じている生徒が多いことから、他者の考えを理解しようとしたり、自分の考えと比較したりすることが考えを深めることにつながっていると考えられる。
- ・他にも考えを深めるのに役立ったと思うことについての自由記述では、「朝読書の時間に資料を読んだこと」「グループでの話し合いの時、司会者や記録者などの役割を決めたこと」「普段発言しない人に先生が指名していたこと」「普段話さない人の意見を聞いたこと」など、やはり多くの人の考えを聞くことが考えを深めることにつながっているとわかった。

### 〈課題〉

- ・動作化、役割演技については、授業に取り入れる機会が少なかったため、実施されていないと回答した生徒が多く、役立ったと感じている生徒も少ないので工夫が必要と考える。
- ・先生の教科や経験など関係のある授業かどうかについて、意識しているのは教師側だけだったため、実施されたと感じている生徒が少ないと考える。

### III 研究のまとめ

本研究は、道徳科における組織的な指導体制および授業づくりの工夫、評価のあり方について検討し、「人間としてよりよい生き方を共に考え、語り合う生徒の育成」を図るものである。そのために、道徳科の授業において、ローテーション授業を実施し、様々な授業づくりの工夫を図り、その有効性を検証した。また、生徒を認め、励まし、意欲を高める評価のあり方についてまとめた。

#### 1 成果

##### (1) 組織的な指導体制の工夫について

ローテーション編成による授業を組織することによって、教師と生徒ともに道徳授業に関わろうとする意識が高まった。

##### (2) 授業づくりの工夫について

授業に様々な教材を積極的に取り入れ、自分の考えを持ち、聴き合う活動を取り入れることによって、生徒が多くのごとくに気づき、これからの行動について深く考えるようになってきた。

##### (3) 生徒を認め、励まし、意欲を高める評価について

学習シートの生徒の記述から、生徒の成長をどのように把握して評価をするか、吟味を重ねることができた。評価文の内容と記載表現も教師間で共通理解を図ることができた。

##### (4) その他

個々の教師が授業のために作成した資料が少しずつ蓄積されてきた。また、授業の進め方について意見を交換したり、様々な研修会で新たに得た情報を共有することができた。

#### 2 課題

(1) 今年度は、ローテーションの方法について、学年ごとに編成の方法を検討する段階にとどまった。学校全体として統一するべきか検討を続けていく必要がある。

(2) 道徳科の授業については教師も、生徒もさらに経験を積み、より考えを深める授業を構築していく必要がある。

(3) 評価のあり方、評価文の作成については、学習シートの記述から作成するだけでなく、他の方法もあわせて検討していく必要がある。

#### <おわりに>

5月から始まったローテーション編成の授業は、2学期終了時までには教師の授業力の向上と、共通理解に基づいた評価文が作成できるようになることをめざした8か月でもありました。授業を終えて職員室に戻るたびに、授業をおこなう中で感じる良さや課題が交わされました。生徒の様子がどうだったか、次の授業ではどうしたいか、自然に会話が生まれるようになりました。多数の教師でおこなうことの強みは、どの教師も授業経験を持つことによって、どの教師も改善に向けた考えを示すことができることです。支え合う意識が醸成されたことも成果の一つと考えます。来年度も課題の改善に向けて、チームとしての取組をより良い形でおこなっていきたいと考えています。

#### 【引用文献】

- ・文部科学省(2018),『中学校学習指導要領』,文部科学省, p.154
- ・文部科学省(2018),『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』,文部科学省, p.1, pp.86-87
- ・岩手県教育委員会(2019),『学校教育指導指針』,岩手県教育委員会 pp.18-19

#### 【参考文献】

- ・福島大学附属中学校(2018),『第79集 主体的・協働的に学び、次代を創り出す生徒の育成』
- ・尾高正浩(2018),『価値の明確化の授業実践～新しい道徳授業づくりへの提唱』(明治図書)
- ・千葉市立轟町小学校(2019),『令和元年度 研究紀要』,千葉市立轟町小学校
- ・坂本哲彦(2018),『「分けて比べる」道徳科授業』,東洋館出版社
- ・尾高正浩 編著(2018),『「特別の教科 道徳」の評価 通知表所見の書き方&文例集』,日本標準
- ・諸富祥彦 編著(2018),『小学校道徳 評価を位置付けた授業プラン&通知表文例集』,明治図書

#### 【参考Webページ】

- ・ <https://www.nichibun-g.co.jp/data/education/doutoku-hiroba/doutoku-hiroba021/> (日本文教出版, どうとくのひろば)

<資料1>

## 研究の流れ

組織的な指導体制		授業づくり	
4月	<p>道徳の週時程上の配置の検討 ・道徳は毎週水曜日1校時とする。</p> <p>学年内ローテーションの編成 (各学年ごと計画)</p>	<p>道徳授業びらき (学年ごと)</p> <p>・先生が毎時間変わること ・学習シートの記入のしかた ・相手の考えから学ぶこと ・自分の考えを相手に伝えること</p>	
5月	<p>ローテーション授業開始</p> <p>→授業の準備→実践→ふり返り→改善→</p> <p>・教師どうしの学び合い。 ・各教師のふり返り記録の蓄積</p>		
6月	<p>先進校視察(福島大附属中)</p> <p>授業に必要な 物品の購入① (ストップウォッチ, 付箋紙)</p>		
7月	<p>校内教師へのアンケート調査</p> <p>・指導の見直しができたか。 ・授業が質的に向上したか。</p> <p>教務部内打ち合わせ会</p> <p>・アンケート結果の確認</p>	<p>7/16 第1回 校内研究会 1年「アニー・サリバン」【内容項目】: あきらめない心</p> <p>○テーマを最初に提示したことで何について考えるかが明確になった。 ○「心のものさし」に名札を貼ることで生徒が全員参加できた。 ○生徒は主人公のことを自分事としてとらえていた。 ○ふり返りの時間の確保ができた。 ○3つのクラスで事前授業をおこなうたびに改善を図ることができた。本時が4クラス目である。</p> <p>▲テーマへの迫り方が弱い。 ▲主人公の立場で考えさせることをもっと取り入れること。 ▲発問が多く(4回), 話し合いの時間が短い。</p> <p>★生徒の発言から広げていく場面の設定がほしい。</p> <p>( ○成果, ▲課題, ★今後に向けた提案 )</p>	
8月	<p>8/8 第2回 校内研究会 盛岡教育事務所出前研修講座(SL講座)①</p> <p>・1学期のローテーション授業のふりかえり ・先進校視察報告(福島大附属中) ・授業づくり演習(中心発問と授業の構成のしかた)</p> <p>1学期の指導体制について</p> <p>○授業の負担感がなくなった。 ○十分な授業の準備時間ができた。 ○生徒が道徳の時間を楽しみにしている。 ○教師の間で授業について実践的な話題が会話がふえた。 ○担任の先生が自分のクラスの授業を見ることができた。 ○多くの教師がどのクラスの授業も担当することで, 授業の質が一定に保たれると感じた。 ○回を重ねることで自分が納得する授業の形に近づいた。</p> <p>▲ローテーションの組み方によっては教材を自由に選べない。 ▲校務分掌の仕事と道徳授業の両立の負担感がある。 ▲教材を扱う時期がずれる。</p>	<p>1学期の授業づくりについて</p> <p>○VTRの活用ができた。 ○「心のものさし」の活用などによって話し合いやすい場の設定ができた。 ○ワークシートへの記入は生徒自身が自分を振り返るためにも, 意見を交換するうえでも効果的。</p> <p>▲生活指導・生徒指導的な考え方と結びつけたくなる場面があるので教師の意識改革が必要である。 ▲学年朝会が長引くと授業の開始が遅れる。 ▲生徒の意見交流の時間が不足してしまう。</p> <p>★資料が長い場合, 朝読書時間に生徒に読ませる。 ★テーマは最初に提示することで何について考えるが明確になる。 ★発問は多くても3つまで。多いと話し合いが深まらない。 ★中心発問は教材中の「価値を果たす人」に焦点を当てて考える。 ★価値項目の解釈と中心発問の内容がずれないことが大切。 ★授業を継続しながら評価のしかたを検討していく。</p> <p>( ○成果, ▲課題, ★今後に向けた提案 )</p>	

8 / 27 校内研究推進委員会	
・ 2学期のローテーション編成 ・ 2学期の授業づくり ・ 年度末評価について	
<p style="text-align: center;"><b>2学期の指導体制について</b></p> <p>★ローテーションの改善            &lt;1学年&gt; 担任がローテーション編成に組み込む機会をふやす。            &lt;2学年&gt; 2人ペアを組んで同じ教材の同時授業だと見合うことができない。時間をずらして互いに参観できるようにする。            &lt;3学年&gt; 進路指導主事の事務量の多さに配慮し、他の教師でローテーションを編成することにする。</p> <p>★時間割上の道徳科の配置            ・ 全校、学年朝会がない曜日の1校時とする。</p> <p>★50分授業の確保            ・ 始業前のVTRの準備。            ・ 始業時の着席の徹底。            ・ 教科書・ファイルの準備。</p> <p>★ふり返しシートの全校統一            ・ 3つの観点「価値理解」「多面的多角的理解」「生き方への考え」を見とりやすい様式に。</p> <p>★実践を来年につなぐ            ・ 板書の写真、紙板書、            ・ 学習シートを蓄積していく。</p>	<p style="text-align: center;"><b>2学期の授業づくりについて</b></p> <p>★授業の質の向上のために            ①資料が長い場合、生徒に資料を事前に読ませる。            ・ 朝読書時間や始業前の5分間を利用する。            ②テーマを示す。            ③生徒が話しやすい場の設定。            ・ 3～4名の少人数グループ。            ・ 気持ちの可視化。(心のものさし、座標軸など)            ④ねらい(テーマ)にせまる中心発問と授業づくり。</p> <p>★評価文の作成のしかた            ・ 生徒のふりかえりシートについて、記述をABCの観点で色分けする。</p> <p>A「自分との関わりについての価値理解」…イエロー            B「多面的・多角的な価値理解」…グリーン            C「生き方についての考えの深まり」…ピンク</p> <p>・ 割合が大きいのはどの色か把握する。            ・ 大きく見渡して、特徴的な成長を把握する。            ・ その色が示す生徒の成長について、特筆できる授業を取り上げ、生徒の変容や新たな気づきを具体的に記述する。</p>

9月

授業に必要な物品の購入②  
 尾高正浩 著  
 『「価値の明確化」の授業実践  
 ～新しい道徳授業づくりへの提唱』  
 (明治図書)

授業に必要な物品の購入③  
 (ホワイトボード)

9 / 30

第3回 校内研究会

外部講師の先生の授業から学ぶ

講師：千葉市立轟町小学校 尾高正浩 校長

1年「友達」

【ねらい】 今までの友達に対する行いを振り返り、よい友達関係をつくろうとする心情を育てる。

<授業後の研修会で学んだこと>

- ・ 道徳の授業で一番大切なのは「教材」である。
- ・ 生徒にとってわかりやすく考えやすいものを選んでよい。
- ・ 教材として活用できる資料を日常から検討しておく。
- ・ 「聴き合い学習」の良さ。
- ・ 教師の「聴き合い学習」実習。(3～4人グループで)
- ・ 学習シートと評価のしかた。

10月

授業に必要な物品の購入④

道徳教科書・・・4社  
学研, 学校図書, 東京書籍,  
日本文教出版

10/21 第4回 校内研究会  
2年「秀さんの心」 【内容項目】: 礼儀

○テーマ発問で始まり, テーマ発問で終わることによって生徒の考えに深まりと変容が感じられた。  
○構造的な板書構成だった。  
○動作化によって「礼儀」について考えさせたこと。  
○主発問, 補助発問(つなぐ・広げる・深める)がよかった。

▲登場人物のおじぎについて深めていくとよい。  
▲発問の言葉をはっきりさせること。  
▲多面的多角的に考えさせるためにホワイトボードを活用するなど, 全員で交流させる手立てが必要。  
▲書くことがメインになっていた。対話や発表が活発にならなかった。  
▲生徒の意見を吸い上げる手立てが必要。

★対話が活発であれば考えが深まっているというわけではない。「対話」の形にとらわれず, 学級の実態や教材によって静かに考えを深める授業もよい。  
★価値項目と指導者の価値のとらえが合わない場合は, 学習指導要領を確認してほしい。

11月

11/21 第5回 校内研究会 S L 講座②  
・評価文作成の視点の確認 ・評価文作成演習

評価に生かす指導体制	共通理解に基づいた評価文づくり
実際に生徒が書いたふりかえりシートについて教師3～4名がグループを組み, 相談しながら評価文を作成する。	★要録記載は50字程度。大きくくりな見方に基づいた記述。 ★通知表は150字程度とし, 指導要録記載分に加えて, 授業で目立った具体的な発言や考え方を記述する。

12月

アンケート調査 (対象: 教師・生徒)

・組織的な指導体制について    ・生徒の対話と思考の深化について    ・授業づくりの工夫について

1月

・結果の集計    ・結果の考察    ・次年度に向けた方針の検討

2月  
3月

次年度の計画立案

### 「価値の明確化」方式の授業 ー千葉市立轟町小学校 校長 尾高正浩 氏から学ぶー

ローテーション編成によって、授業経験が積み重なるにつれて、授業づくりで最も課題として意識されるようになったことは、テーマ（価値）と向き合う授業展開であった。発問の内容がテーマからわずかでも反れてしまうと、生徒の考えや対話が深まらないことがわかってきた。授業後、それぞれの教師は、回収した学習シートの記述に目を通して、生徒がテーマに向き合っているか、考えを深めることができたか、などについて自分の授業を評価することが日常となった。

テーマ（価値）と向き合う授業づくりについて、千葉市立轟町(とどろきちょう)小学校校長、尾高正浩氏から学ぶ機会をもつことができた。わかりやすく具体的な授業づくりのポイントを教えていただき、それぞれの教師の授業が少しずつ変化している。そのきっかけとなった尾高氏による授業の実際も以下に紹介したい。

ここでは、尾高氏の著書『価値の明確化の授業実践～新しい道徳授業づくりへの提唱』（明治図書、2018）の中で氏が述べている内容に基づいて「価値の明確化」とは何か、その大まかな内容を述べることにする。

#### ■「価値の明確化」とは

尾高氏は、「道徳の授業の方法は多種多様で、長所・短所がある。生徒の実態に合わせて資料や指導法を変えていく必要がある。」と述べながら、この方式の授業を一度試してみることを勧めている。

「価値の明確化」とは「自己の明確化」である。

「価値の明確化」とは、『「自己」についての明確な意識であり、…（中略）…自分が今どんな人間であり、どんな生活を送っているのか。自分という人間はどんな人や出来事との出会いによってつくられてきたのか。自分は何を大切にしている、これからどんな人生を生きようとしているのか。』ということを明瞭に理解している意識である。

「価値の明確化」方式の授業は、自己についての意識性の高まりを援助する授業であり、「価値の明確化」方式の授業で目指すものとして次の二つをあげ、この二つが道徳授業の大きな柱になっていくと述べている。

「価値の明確化」方式の授業で目指すもの = 道徳授業の柱

- ・「自分づくり」の力 …多様な選択肢の中から自分の生き方を自分で選び取る力。
- ・自分で問題を発見し解決する力…問題場面に直面したときの意思決定の力。

#### ■「価値の明確化」方式の授業のポイント

「価値の明確化」方式の授業のポイントは、次の1～3の過程で示される。

**1 個人の思考時間の確保**  
ワークシートに生徒が書く時間の確保。  
・教師は机間巡視をしながら、全員が書けたことを確認して次に進む。  
・書けない生徒、質問の意味がよく分からなかった生徒には支援する。

↓

**2 グループでの聴き合い学習**

<p style="text-align: center;">グループ学習を行う意味</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・発展性のある学習のために。</li><li>・自信をつけるために。</li><li>・自己肯定感を育てるために。</li><li>・コミュニケーション能力を身につけるために。</li><li>・参加の楽しさを味わうために。</li><li>・自分自身の経験の意味を学ぶために。</li></ul>	<p style="text-align: center;">聴き合い学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・話し手として質問に答えることで、自分の考えをより明確にする。</li><li>・話し手として自分の考えを聴いてもらえる、大切にされているという自尊感情を高める。</li><li>・聞き手としていろいろな考えがあることに気づき、友達の意見を大切にしていこうという気持ちを高める。</li></ul>
--	---

↓

**3 全体での話し合い**  
個人思考から共同思考を通すことによって思考の拡大や思考の深化を図ることができる。

#### ■ 聴き合い学習の進め方

- |  |  |
|--|--|
| ① グループは3～4人にする。<br>↓<br>② グループ内で司会者を決める。<br>↓<br>③ 司会者が話す順番を決める。<br>↓<br>④ 話す人は自分の考えと理由を話す。<br>↓ | ↓<br>⑤ 聴く人は相手の目を見て話を聴く。<br>うなずいて聴く。話をさえぎらない。<br>否定しない。意見をまとめない。<br>↓<br>⑥ 1人の人が話し終えたら他の人は感想を言う。<br>例：「あなたの考えはここがいいと思いました。」<br>「こういうところが私も強く感じました。」<br>「その考えは私と同じです。」 |
|--|--|